

# 原油市場展望

2023年7月



調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2023年7月5日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎（Tel：080-4176-4439 Mail：matsuda.kentaro@jri.co.jp）

◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます（右側QRコードからもアクセスできます）。

新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。



# 原油価格見通し：当面70ドル前後で推移

## ◆現状：70ドル台を中心に推移

6月のWTI原油先物価格は、月前半に、OPECプラスが現行の減産計画を24年末まで延長することで合意したほか、サウジアラビアが単独で自主減産を決定したことを背景に、74ドル近くまで上昇。その後、イラン核合意再建により原油供給が増加するとの見方などから、一時67ドル割れ。

月後半は、米国の追加利上げ観測の高まりが下押し要因となる一方、中国の景気対策への期待や米原油在庫の減少が相場を下支えし、70ドルを挟んで一進一退。

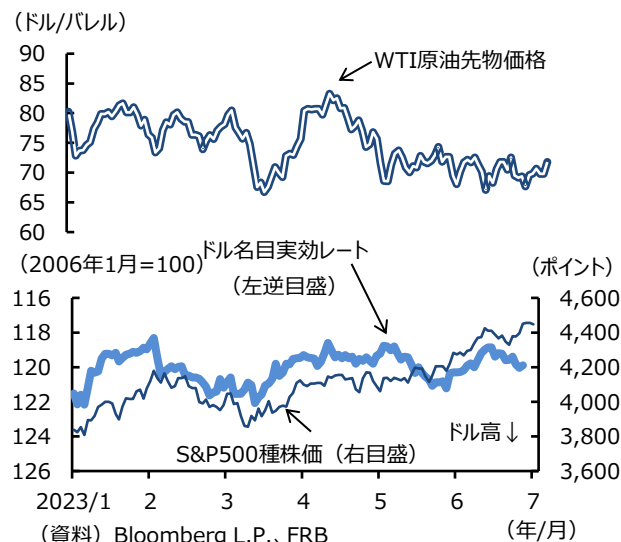
## ◆投機筋の買い越し幅は縮小

米国や欧州など主要国の金融引き締め長期化により原油需要が低迷するとの見方が根強く、投機筋による原油先物の買い越し幅は縮小。

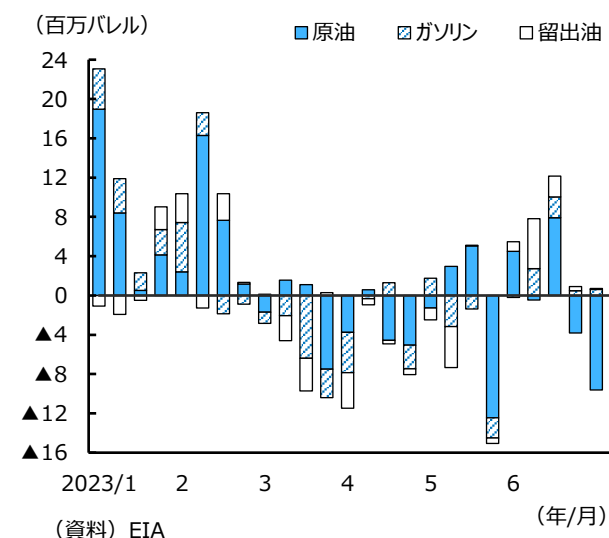
## ◆見通し：横ばい圏での推移

先行きを展望すると、当面の原油価格は70ドル前後で推移する見通し。主要国の金融引き締めを背景とした世界景気の減速で原油需要の減少が意識されやすい状況。ただし、OPECプラスによる減産が継続されるほか、シェールオイルの増産ペースは緩やかにとどまることから原油供給の増加も限られ、原油価格は底堅さを維持する見込み。

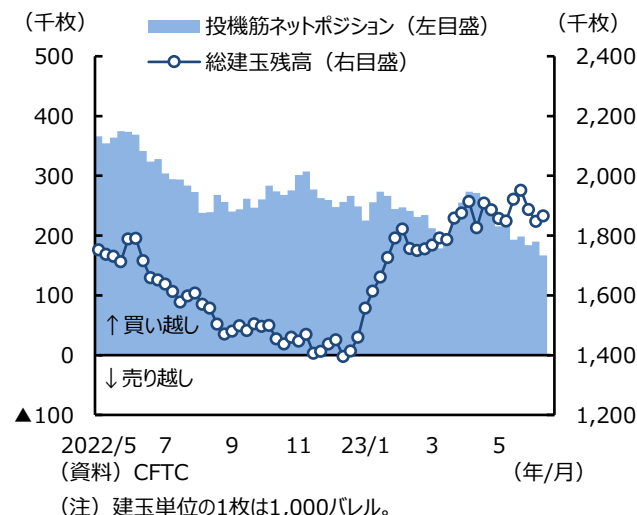
原油価格と株価・為替レート



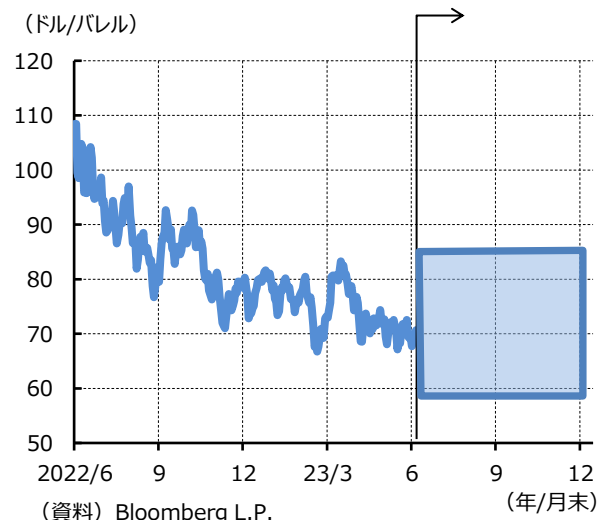
米国の原油・石油製品在庫 (前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



# トピック：大規模な減産下でも需要懸念が優勢

## ◆減産による原油価格押し上げは限定的

OPECプラスは、6月会合で減産を強化して以降も、原油価格を下支えする姿勢を堅持。サウジアラビアは、7月に実施する日量100万バレルの減産を8月も継続すると表明したほか、ロシアも同月に50万バレルの輸出を削減すると発表。これにより、夏場にかけて400万バレル超の減産へ。

もっとも、こうした原油供給抑制材料が出るなかでも、原油価格の上昇はみられず。EIA（米エネルギー情報局）が公表する世界の原油需要は前年からの持ち直しが想定されているものの、市場では需要下振れへの警戒が根強い状況。

## ◆需要下振れ懸念は当面燦る公算

原油需要減少への懸念が強い背景は以下の2点。

第1に、欧米の金融引き締め長期化による景気減速。米国やユーロ圏では、企業の景況感が悪化。長引く高インフレにより一段の利上げ観測が高まりやすく、先行きの景気の不透明感容易に解消されない状況。

第2に、中国景気の減速。中国は、ゼロコロナ解除後に大きく持ち直しているものの、年後半はリバウンド消費の一巡などを背景に成長が鈍化する公算大。政府による一段の追加経済対策が実施されなければ、堅調な需要回復は見込み薄。

